

**<学会記録>4. 発展途上国の歯科保健状況と社会特性  
指標に関する多変量解析(一般講演)(東日本歯学会  
第13回学術大会(平成7年度総会))**

著者名(日)	三浦 宏子, 廣瀬 公治, 水谷 博幸, 上田 五男, 荒木 吉馬
雑誌名	東日本歯学雑誌
巻	14
号	1
ページ	111
発行年	1995-06-30
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1145/00008038/">http://id.nii.ac.jp/1145/00008038/</a>

の学問を立体的に組み立てるためにも関連科目名と項目を記載してはどうか等の意見があった。

#### IV. 結論

今回のアンケート結果より、授業計画を公表することは、学生の自主学習を援助するだけでなく、教育の統合性や一貫性を保ち授業の重複を防ぐことができるという

所期の目的を確認できた。また、専任教員の授業では落ち着いた雰囲気の中で臨んでいる等の効果が得られた。

今後、歯科衛生士教育を充実させるために、学生の声や教員からの意見を十分考慮し授業計画を発刊し継続する必要があると考える。

#### 4. 発展途上国の歯科保健状況と社会特性指標に関する多変量解析

三浦 宏子<sup>1)</sup>、廣瀬 公治<sup>1)</sup>、水谷 博幸<sup>1)</sup>  
上田 五男<sup>1)</sup>、荒木 吉馬<sup>2)</sup>  
(口腔衛生<sup>1)</sup>、歯科理工<sup>2)</sup>)

**【目的】** 発展途上国における社会特性指標と、齲蝕罹患を中心とした歯科保健状況について定量的に解析した報告は極めて少ない。そこで、本研究では、発展途上国の経済、教育、都市化レベル等の社会特性指標と、12歳児の1人平均齲蝕経験歯数との関係を明らかにすることを目的として、重回帰分析ならびにクラスター分析を行った。

**【調査対象ならびに方法】** 本研究で対象とした発展途上国は、国民1人あたりGDPが9,000\$以下の54ヵ国である。この54ヵ国の12歳児のDMFT指数を目的変数とし、社会特性指標を説明変数としてステップワイズ法による重回帰分析を行い、12歳児の齲蝕経験に及ぼす要因を検討した。次に、重回帰分析で選択された要因を基準としてクラスター分析を行った後、各クラスターごとの12歳児DMFT指数についてKruskal-Wallis検定を行った。

**【結果および考察】** 単相関係数ならびに偏相関係数の結

果、統計的に有意な項目は、都市人口割合、第2次産業従事者割合、第3次産業従事者割合などの工業化社会への発展に伴って変動する6項目であった。この6項目について、ステップワイズ法による重回帰分析を行った。その結果、第1ステップで都市人口割合が、第2ステップで第3次産業従事者割合が選択され、最終的な重回帰係数は0.717、決定係数は0.514 ( $P < 0.001$ )であった。次に重回帰分析によって得られた都市人口割合と第3次産業従事者割合を基準としてクラスター分析を行った結果、対象国を大きく3クラスターに分けることができた。この3つのグループにおける12歳児のDMFT指数をみると、Kruskal-Wallis検定によって有意差が認められた ( $P < 0.001$ )。都市人口割合、第3次産業従事者割合はともに都市化の因子と考えられ、都市化レベルと齲蝕罹患状況との間に強い関連性が認められた。

#### 5. PCTシステムの歯内療法実習の作業長決定について

##### —電気的根管長測定とX線撮影を併用した場合—

木村 庸一、高松 隆常、加藤 義弘  
坂東 省一、石井 克枝、河合 治  
文田 博文、大井戸真理、加藤 幸紀  
横田 光弘、谷口 貴子、桜井 麻子  
小鷲 悠典  
(歯科保存学第一)

**【目的】** 歯内療法において作業長の決定には電気的根管長測定器(以下EM)やX線写真を用いた方法が高頻度で用いられており、学生教育においてもその有用性の理解と手技の習得が重要である。我々は、EMが使用でき

るPCT-ENA模型を用いた歯内療法実習を行っているが、さらに教育的効果を高めるためにX線写真撮影ができるPCT-ENA模型を開発し、学生実習に応用したので報告する。